

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立宇和津小学校

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、夢や希望を持ち続け、未来を生き抜く児童」の育成				
基本方針	児童を教育活動の中心に据え、一人一人を生かす教育実践に努めるとともに、家庭・地域に愛され、信頼される学校づくりを目指す。				
本年度重点目標	1 確かな学力の定着と向上 2 学校全体で進める生徒指導・特別支援教育の充実 3 ふるさと学習の推進 4 学校運営協議会の充実・発展 5 教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化及び働きがい改革				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成		
			・具体的な対策の実施		
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	C
			・保護者アンケート	C	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	C
			・保護者アンケート	D	
	⑤ ふるさと学習及びESDに関連する学習	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	B
・保護者アンケート			C		
(成果と課題) ○どの教科でも、授業の中で、ねらいを明確にした話し合い活動や調べ学習等を効果的に取り入れ、児童が主体的に学ぶことができる授業になるよう改善に努めた。 ●読書に関する評価が、教師・保護者・児童とも低い。家庭で読書をする児童が少なく、読書を含めた効果的な家庭学習の在り方を考える必要がある。					
(改善策等) ・授業に繋がる読書や調べ学習を家庭学習としたり、電子図書の活用を推奨したりすることで、家庭での読書の機会を増やしていく。また、学校体育や習い事等で、家庭で読書をする時間が十分に取れない児童もいるため、家庭学習の量や内容について、児童の実態に合ったものに調整していく。 ・主体的に家庭学習に取り組めるよう、EILSを活用した復習等を効果的に取り入れていく。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	B	
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	A
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	C	C
			・児童生徒アンケート	C	
(成果と課題) ○生徒指導主事を中心に、校内の報告・連絡・相談の体制が確立しており、生徒指導上の問題に対し、組織的に対応することができた。 ●児童の自己肯定感や自己有用感を高めるための、意図的な取組が十分に実施できていない。					
(改善策等) ・「児童を認め、褒める」ことを常に意識しながら、児童一人一人への言葉掛けや対応の仕方を工夫していく。 ・自己肯定感や自己有用感を高めるための効果的な取組について研修を行い、全校体制で実践を継続していく。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A A	A
	②	働きやすい環境づくり 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実 教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題) ○諸問題に対し、教職員間での相談体制が構築できており、互いに助け合い協力しながら勤務することができた。 ●学校体育の指導や成績処理の時期は、勤務時間が長くなる傾向があった。</p> <p>(改善策等) ・スクールサポートスタッフや学校教育活動支援員を積極的に活用するなど、サポート体制が充実しているので、今後も継続していく。 ・学校体育の放課後や週休日の指導が、指導者の過度な負担にならないよう、休業日の設定や指導者の割当を考慮して計画を立てていく。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題) ○地域学校協働活動推進員が、学校と地域をつなぐ役割を担っていることが、円滑な学校運営につながっている。 ○ホームページを毎日更新したり、学校だよりや学級通信を定期的に発行したりすることで、学校の教育活動に関する情報を、家庭や地域に積極的に発信することができた。</p> <p>(改善策等) ・地域学校協働活動推進員と連携しながら、学校運営協議会の充実に努め、今後の学校運営に生かしていく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満